

ボクシング（令和6年度）

兼全国及四国高校県予選

| | | | | | | | |
|---|---|----------|----------------|-------|---------------|------|--------------|
| 日 | 時 | 6月 1日（土） | 点呼 | 7：20 | 健診・計量 | 7：30 | （1回戦出場階級の選手） |
| | | | 監督会議・インテグリティ研修 | | 健診計量後 | | |
| | | | 開会式 | 14：00 | | | |
| | | | 試合 | 14：15 | （各階級1回戦） | | |
| | | 6月 2日（日） | 点呼 | 7：50 | 健診・計量 | 8：00 | |
| | | | 試合 | 11：00 | （各階級準決勝・一部決勝） | | |
| | | 6月 3日（月） | 点呼 | 7：50 | 健診・計量 | 8：00 | |
| | | | 試合 | 12：45 | （各階級決勝） | | |
| | | | 閉会式 | 競技終了後 | | | |

会場 松山工業高校 第2体育館（6月1日の健診はかどた脳神経外科で行う。）

階級 ピン級からミドル級までの8階級（男子）

| | | |
|----------------|----------|-----------|
| ・P級（ピン） | 44キログラム超 | 46キログラムまで |
| ・LF級（ライトフライ） | 46キログラム超 | 49キログラムまで |
| ・F級（フライ） | 49キログラム超 | 52キログラムまで |
| ・B級（バンタム） | 52キログラム超 | 56キログラムまで |
| ・L級（ライト） | 56キログラム超 | 60キログラムまで |
| ・LW級（ライトウェルター） | 60キログラム超 | 64キログラムまで |
| ・W級（ウェルター） | 64キログラム超 | 69キログラムまで |
| ・M級（ミドル） | 69キログラム超 | 75キログラムまで |

ライトフライ級からライト級までの3階級（女子） ※エキシビション

| | | |
|--------------|----------|-----------|
| ・LF級（ライトフライ） | 45キログラム超 | 48キログラムまで |
| ・B級（バンタム） | 51キログラム超 | 54キログラムまで |
| ・L級（ライト） | 57キログラム超 | 60キログラムまで |

競技規則（公社）日本ボクシング連盟競技規則を適用する。

競技方法（1）個人戦とするが、学校対抗を兼ねる。（男子）

（2）1ラウンド2分とし、3ラウンドで行う。

（3）トーナメント方式で行い、優勝、準優勝を決定する。ただし、3位決定戦は行わない。

得点規定（1）抽選の不戦勝を除いて、1勝ごとに勝ち点1点を加点する。

（2）優勝には5点、準優勝には3点を加点する。

学校別順位決定法

（1）個人の得点の合計点で決定する。

（2）同点の場合は、優勝の数による。

（3）（1）、（2）が同点の場合は、準優勝の数による。

（4）（1）、（2）、（3）が同点の場合は、3位の数による。

（5）（4）で決定できない場合は、同位とする。

引率監督（1）引率責任者は、校長の認める学校の職員とする。

（2）監督は学校長が認める指導者とし、チーフセカンド、サブセカンドは日本ボクシング連

盟が認定するセカンド資格を取得している者とする。それが外部指導者の場合は傷害・賠償責任保険（スポーツ安全保険等）に必ず加入することを条件とする。

- (3) チーフセカンド、サブセカンドは日本ボクシング連盟が認定するセカンド資格を取得していなければならない。（また、セカンドを行う者（指導者）は、日連が定期に実施するインテグリティ研修に必ず参加しなければならない。セカンド手帳を提出し、実績の証明を受けなければならない。参加したものに限りその大会のチーフセカンドを務めることができる。）試合時には必ずセカンドワッペンを着用すること。
※セカンド届出用紙を参加申し込みと共に提出すること。

大会参加資格

- (1) 選手は、学校教育法第1条に規定する高等学校（中等教育学校後期課程を含む）に在籍する生徒であること。但し、休学中、留学中の生徒は除く。
- (2) 選手は、都道府県高等学校体育連盟に加盟している学校の生徒で、当該競技専門部に登録したものに限る。但し、都道府県高体連に専門部が設置されていない種目については、加盟校の生徒であることとする。
- (3) 年齢は、平成17（2005）年4月2日以降に生まれたものとする。但し、出場は同一競技3回までとし、同一学年での出場は1回限りとする。
- (4) チーム編成において全日制課程・定時制課程・通信制課程の生徒による混成は認めない。
- (5) 統廃合の対象となる学校については、当該校を含む合同チームによる大会参加を認める。
- (6) 転校後6ヶ月未満のものは参加を認めない。（外国人留学生もこれに準ずる）但し、一家転住などやむを得ない場合は、県高等学校体育連盟会長の認可があればこの限りではない。
- (7) 出場する選手は、在学する学校の校長の承認を必要とする。
- (8) 申し込み日までに（公社）日本ボクシング連盟へ令和5年度の選手登録済みの生徒であること。（未登録者は申し込みを受け付けない）
- (9) 選手は、選手手帳の携行を必要とする。不携行の場合は出場させない。なお、競技会場において、選手手帳を忘れた生徒には新たな更新を行わせない。よって、選手手帳不備のものは事前に準備すること。選手手帳は、決勝まで勝ち進むとして、記入できる新しいページが3ページ以上あること（コピー不可）。途中で記録欄がなくなった場合は失格とする。選手手帳を更新した場合、前の手帳も持参すること。持参しない場合は失格とする。
- (10) 競技参加資格は実練習期間6ヶ月を超えている者で、指導者が出場可能と認めた場合は所属連盟及びブロック連盟に申請し、都道府県の予選会等に出場することができる。
- (11) 令和6年度の健康診断記録に必要事項が記載され、医師の署名捺印がされていること。
- (12) 頭部単純CT検査の結果を診断書として、愛媛県ボクシング連盟医事委員会に必ず提出すること。診断書は、くも膜のう胞の有無が明記されたものでなければならない。

連絡事項

- (1) 次のものを各自で必ず持参すること。
- ア 選手手帳
- イ 競技用ヘッドギア〔前頭部及び側頭部には学校名などの記入（刺繍も含む）のないもの。〕（公社）日本ボクシング連盟及びIBAの検定品で競技用に限る。

ウ カッププロテクター

エ 競技用ユニフォーム、トランクス、シューズ ガムシールド

(但し、赤または赤に類する色の使用は認めない)

- (2) バンテージについては、各自が用意すること。
((公社) 日本ボクシング連盟検定品を使用すること。)
- (3) 毛髪などについては、「(公社) 日本ボクシング連盟医事ハンドブック第5章(2) 毛髪」の項を厳守すること。
- (4) ユニフォームについて
ア ユニフォームはコーナー色のユニフォーム(赤色及び青色)に限る。ベルトラインは6cm~10cm幅の赤・青以外の色で明白に区別されていること。
イ ユニフォームに都道府県名のないものは、背部にゼッケンを付けること。
(但し、郵便葉書2枚大とする)
- (5) 競技中の疾病、障害などの応急処置は主催者側の負担とするが、その後の責任は負わない。
- (6) 引率責任者は、選手の行動に対して全ての責任を負うものとし、選手は高校生としての本分を忘れてはならない。
- (7) 選手・監督などは健康保険証を持参すること。
- (8) 健診・計量は次のとおり行う。選手手帳を持参することとし、不携行の場合は出場させない。また、選手集合場所にて不在の者は失格とする。
計量は、パンツ(スパッツは認めない)以外は裸で行い、選手が希望すれば、全裸で計量器に乗ることが出来る。(但し、計量は1回のみとする)
- (9) 視力0.1を超える者をOKとする。(但し、ソフトコンタクトレンズを使用している者はその旨を申し出ること。その者は健診時には必ずコンタクトレンズを装着しておくこと。)
- (10) 各階級の優勝者は第30回四国高等学校ボクシング選手権ならびに令和6年度全国高等学校総合体育大会ボクシング競技への出場資格を得る。ただし、ピン級、ウェルター級、ミドル級については四国高等学校ボクシング選手権大会において上位2名が、令和6年度全国高等学校総合体育大会ボクシング競技への出場資格を得るものとする。
- (11) 各階級の優勝者は第30回四国高等学校ボクシング選手権Aパートへの出場権を得る。また、各階級準優勝者はBパートへの出場権を得る。

その他

- (1) スポーツエントリーズチェック

日 時 6月1日(土) 7:00

場 所 かどた脳神経外科

持参物 選手手帳 ユニフォーム 健康申告書